

VII-49

名久井岳における地形による考察

八戸工業高専 建設環境工学科

同 上

同 上

正会員 金子伸一郎

学生会員 日影 賢治

学生会員 見付 隆

1. まえがき

名川町は昭和三十年に名久井村と北川村が合併して出来た町で、各々村の業績を引継ぎ、霊峰名久井岳や馬淵川、白樺山法光寺などを代表とする自然と遺跡に恵まれ、さくらんぼ作りなど果樹栽培の盛んなところである。

昔から治山治水、生態系の維持など森の果たす役割は大きいと言われてきた。最近、近海の漁業に関し森の及ぼす影響が養殖業などにも現れ、湾内の魚介類を殖やすことを目的とした植樹運動が各所でおこなわれている。

名川町、三戸町の両町に跨る標高615mの名久井岳について、昨年の階上岳に引き続き山の研究の第一歩として地形から調べてみた。



図 - 1

2. 山の観察について

(1) 野外から観察：山に登り現地並びに周辺をみて、各状況をマクロに観察し、既存情報の確認や新たな現地情報を収集する。

(2) 地形を調べる：接峰面図、水系図、谷密度の作成。

接峰面図は地形が現在の形に侵食される以前の元の形に復元を考えた図である。

水系図は高さの違いが地形にある場合、表面の物質を侵食し運搬する媒体があれば柔らかい部分は特に削られ谷が形成される、谷の発達状況をありのままに表現した図である。

谷密度は谷がどの程度発達しているのかを示す指標である。地形の解析の程度を反映するため土地利用の難易度、開発工事の難易度が推測される。



写真-1

3. 観察による考察

(1) 名川町役場に資料収集のため出かけた。

名川町は青森県の南端に位置し、東は福地村、南郷村の両村と西は南部町と三戸町に、南は岩手県二戸市と軽米町に、北は五戸町に隣接している農村である。人口9872人（平成7年度国勢調査）。りんご・さくらんぼ梅など果樹を中心とした農業が基幹産業となっている。土地利用状況は、町総面積8345haのうち、農振内現状農用地面積1957ha（23.45%）、宅地等面積184ha（2.2%）、山林原野4971ha（59.57%）、その他1233ha（3.78%）となっており、山林原野が約60%と多いが土地の利用状況は比較的良い。

南沢山地区の地質は、新第三系中新世の白鳥川層群からなる。本層群は、岩手県福岡を中心とした地域に発達し、北部では名久井岳を中心とする背斜構造の周辺に分布する。北上山地を構成する中・古生層を不整合で覆い、安山岩類とそれに伴った火山砕屑物・陸生・頻海一浅海性堆積物などによって構成されている。

名久井岳安山岩は名久井岳背斜状起伏帯の中央部を占めて分布し本安山岩の舌部は金田一西方で末の松山層の五日町砂岩部層と米沢砂岩部層間に挟まれる。名久井岳中心部周辺に達する新田粗粒砂岩は暗灰黒色粗粒砂岩を主とするもので大部分安山岩質の火山岩粒よりなり名久井岳安山岩の噴出と直接ないし間接



写真-2

的なつながりをもつ。名久井岳安山岩との境界はきわめて不明瞭で、クロスラミナが顕著となり、粒度が小さくマトリックスに凝灰質物質が少なく砂質となったところを境界としているが、両者は側方（水平的）移化の関係にある。

平成8年10月に名川町側から名久井岳に登ってみた。登山口の手前に名久井岳こども自然王国がある。遊びながら自然を体験できるいろいろな施設がありそれを眺めながら法光寺を通して登頂を試みた。少し歩き始めると道が二手になり右手の登りのきついカモンカ遊歩道を登ることにした。殆ど急な坂で加工された木製の階段が用意されており見た目より思いのほか気持ち良く登ることができ、その様を写真-1に撮る。頂上まで0.7kmを指示する案内板からかなり急な勾配となりチェーンを使つての登り坂になった。写真-2はその場所の様子である。それから山頂に近づくにつれ気温が急に下がってくるのを感じた。写真-3は頂上に設けられた記念碑である。



写真-3

(2) 地形図からの考察

接峰面図の作図法には方眼法と埋谷法があり、それぞれに特徴をもっている。方眼法は山頂の高さと斜面の状況が詳しく表現され、台地面や段丘面の復元に有効とされている。図-2は埋積（埋谷）接峰面図である。

1/25000の地形図を用いて等高線50mごとに谷の部分に500mで埋めた図である。接峰面図では名久井岳の南南東に位置する折爪岳（標高852m）が大きく名久井岳まで取り囲んでいるように見える。

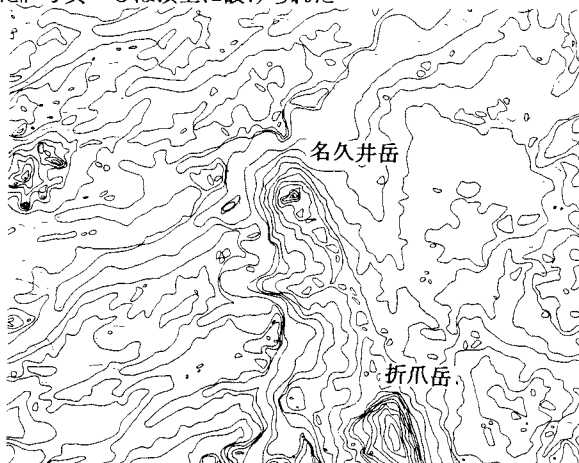


図-2 接峰面図

水系図は、図-3に示した。山頂を中心に水系が発達しているが階上岳について描いた花崗岩類特有の山頂めがけた完全なる樹枝状だけの形状ではなく、樹枝状、亜樹枝状、羽毛状などが描かれている。水系図からは、折爪岳との関連でははっきりとした共通点が見えない。

4. おわりに

谷密度、傾斜区分図についても発表の際には詳しく述べたいと思います。山についての研究資料や説明をして戴いた名川町役場の有谷 隆氏、地形に関する知識指導を戴いた本校の堀田報誠教授の方々に感謝申し上げます。



図-3 水系図

参考文献

1. 金子伸一郎：階上岳について、平成7年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要、pp. 102-103、1996。
2. 金子伸一郎、工藤裕己：階上岳における地形からの考察、土木学会第51回年次学術講演会講演概要集 共通セッション、pp. 198-199、1996。